

ベートーヴェン余話（2）

ベートーヴェン遺品コレクション秘話

—ボドマーとシュテファン・ツヴァイク他—

大沼幸雄

私は、ボンのベートーヴェンハウスを数回訪れていますが、よく「ボドマー・コレクション」と言う言葉を耳にしました。調べてみますと、H.C. ボドマー（1891-1956）はスイスの有名なベートーヴェン遺品コレクターで、1956年彼が逝去した時に、膨大な量のコレクションを全部ベートーヴェンハウスに寄贈しました。ハウスが67年かけて集めてきた遺品が、一挙に3倍と増えたので、「第二の創業」とまで言われたそうです。ハウスの地下には原爆が落ちても耐えられるという堅牢な大型金庫があり、ここに常時大量の遺品が収納されています。この大半が、ボドマー・コレクションから来たものですから、研究員がボドマー・コレクションなる言葉を、頻繁に口にすることも無理はありません。自筆の手紙は現存の400通のほぼ50%を収集しており、自筆譜、会話帳、遺品などベートーヴェンにかかわる物は、余さず集めていました。ハウスは、寄贈から50年目となる2006年に、3ヶ月間のボドマー・コレクション特別展示会を開きました。ここには、ダイム夫人への13通のラブレター、ピアノ・ソナタ「ワルトシュタイン」（op.53）、ホルネマン画の肖像画、エルディ夫人とジュリエッタ・グイチャルディのミニチュア肖像画等々、枚挙にいとまの無いほど有名な遺品が展示されました。

一方、オーストリア生まれの有名なユダヤ人作家で評論家のツヴァイク（1881-1942）は、1934年ナチの台頭と共にイギリスへ亡命（ロンドンとバース滞在）、その後、米国に移り、最後の棲家となったブラジルのペトロポリスで夫人と共に睡眠薬自殺を遂げるという数奇な運命の持ち主です。

彼は、芸術作品を深く理解するには、どのような過程で創造されたかを知るべきと信じていたので、多くの有名人の自筆の手紙、楽譜などを集めていました。研究者、コレクター、稀覯本の古書店、オークションハウスなどと独自のネットワークを構築し、売り物の最新情報を把握しては収集に力を入れていました。

勿論、ベートーヴェンも収集の対象で、最近の研究は、ツヴァイクと

ボドマーは、ベートーヴェンの遺品をめぐる激しいライバル同士であったことが判って来ました。1927年に、ツヴァイクは、オークションでフィデリオの行進曲の自筆譜を買おうとしたところ、ボドマーに高値で攫われてしまいます。匿名で買っていたボドマーに、頻繁に苦汁を飲まされていたツヴァイクは、親友のロマン・ローランに「ベートーヴェン物は、法外の値段になり、手にはいらなくなっています。チャーリッヒに住んでいる大金持ちが青天井で買うからです」と不満をぶちまけています。また自著の中で、自分自身を「ベートーヴェンを買ひ漁るスイスの大金持ちの天敵でオークション・ライバル」と表現しています。

1933年3月、ツヴァイクは、ボドマーの自宅に招かれて、ついにベートーヴェンコレクションを見る機会に恵まれます。彼は、その印象を友人に「とうとうチャーリッヒのコレクションを見ることができました。ただただ素晴らしいと言うほかありません。ポッテチェリもある、レンブラントもある、その他ほか、宝の山に埋もれています」と賛嘆の声を上げています。

1930年代の後半に入ると、ヒトラーの登場でユダヤ系の書物が発禁となり、収入が激減したので、ツヴァイクは収集を中止せざるを得なくなります。1938年になりピアノ・ソナタ“ワルトシュタイン”の自筆譜、交響曲第7番から第9番までのスケッチ・ブックのオファーを受けますが、マックス・ウンガー（1883-1959）（音楽学者でベートーヴェン研究家、遺品目録作成で有名）に「これを買うほどの資金調達はもう出来ません。チャーリッヒの手中に入るのもやむを得ません」と白旗を掲げています。やがてツヴァイクは、最も愛して止まなかったものを除き、ベートーヴェン遺品をすべて処分して



ベートーヴェン使用の書き物机

しまいます。その最も愛していたのが他ならぬベートーヴェンの使用していた書き物机（左写真）でした。これはベートーヴェンの親友のシュテファン・ブローニングの曾孫から譲り受けたもので、現金保管箱、折り畳み式書きもの机、羅針盤、遺髪、ミニチュア肖像画などもあり、合わせて一括入手したものでした。流石に、これだけ

は売却せずに、1939年、何とか亡命先のイギリスに運び、バースの自宅に保管していました。ツヴァイクの自殺の11年後に、ボドマーが、遺族から纏めて買い取ったので、今ではベートーヴェンハウス所有となり、机は最大のアトラクションの一つとなっています。

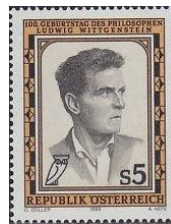
実は、ツヴァイクは巾広いコレクターで、自筆ドキュメントコレクションには、音楽では、モーツァルト、バッハ、ハイドン、ブラームなど、それ以外では、マルティン・ルター、ジュール・ヴェルネ、ジョン・ロック、ゲーテ、ヒトラー、フロイド、イブセンなど多岐にわたる分野の有名人のものが集めていました。ツヴァイクのコレクションは、没後、大英博物館に寄贈されました。しかし、博物館のウェブの目録には、ベートーヴェンのものが一切載っていないのは、ツヴァイクが、いっそのことボドマーの手に収めた方が良いと判断して処分したからでしょう。



ツヴァイク



ロマン・ローラン



ウィトゲンシュタイン

オーストリアで生まれ英国で活躍した 哲学者 L.J.J.ウィトゲンシュタイン(1889-1951)の一族もベートーヴェン遺品コレクターで有名でした。父親はユダヤ系の実業家、ウィーンで製鉄業を営み莫大な富を築きあげた人です。兄のパウルは、ピアニストで、第一次世界大戦で右腕を失い、ラヴェルとヒンデミットに左の手ための作品を依頼しています。ボドマーは、この一族から、ベートーヴェンの荘厳ミサ曲とディアベリ・ヴァリエーションのスッチを購入しています。

こうしてボドマーと言う英明なコレクターにより、歴大な数の遺品が散逸せずに、ベートーヴェンハウスに一括して収まったのは、極めて幸運なことだと申せましょう。

以上

(出典)

- 1) ベートーヴェンハウス・ボン・ウェブサイト、
- 2) 大英博物館ウェブサイト 3) ウィキペディア